

高性能ロングレンジ CCD スキャナ

GRD130 / HGD130

(グリフォン)

(ヘロン G)

<活用設定集>

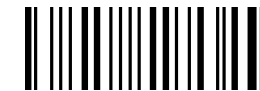
Ver. 1.01



目次

確認音を消して、スポット光で読取確認（図書館／病院）	2
スポット光で読取確認（製造ラインなど、騒音環境）	3
ブザー音色の設定	4
2つのバーコードデータを連結して出力	5
データの一部を抜き出して出力（データ編集機能：1）	6
データの途中にキャラクタを追加（データ編集機能：2）	7
指定の文字をデータに付加して桁数を調整	8
データの桁数を付加して出力	9
バーコード種別ごとのコードID	10
AS400実行キーを右CTRLキーで代用	11
バー検知モード	12
オートスタンドモード	13
デコード多重チェック	14
スキャン回数を減らして省電力	15
日本語入力中に半角出力を	16

出荷時設定 (USB)



設定初期化



USB キーボード I/F



日本語キーボード

日栄インテック株式会社 バーコード事業部
〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町 2-1 日栄インテック神田ビル 3F
電話：03-5256-7733 FAX：03-5256-5503 E-MAIL：info@barcode.ne.jp

確認音を消して、スポット光で読取確認(図書館／病院)

GRD/HGD130

【内容】

読取確認のブザー音を鳴らさない機能です。

【活用例】

図書館や病院など、静粛が求められる環境で使用する場合。
ブザー音を鳴らさなくてもグリーンスポット光で読取確認ができます。

ブザー音を鳴らさずに
読取確認したい。



ブザー音量の設定



大(*)



中



小



無音

スポット光で読取確認(製造ラインなど、騒音環境)

GRD/HGD130

【内容】

ブザー音が聞き取りづらい環境では、読み取れたかどうか判りにくく、読み終わっているバーコードを再度、重複して読んでしまう場合があります。

グリフォン/ヘロン G なら、グリーンスポット光により、ブザー音が聞き取りづらい環境でも確実に読取確認が可能です。

ブザー音長も変更可能です。

【活用例】

製造ラインなど、騒音の中での作業でも、確実に読取確認できるようになります。

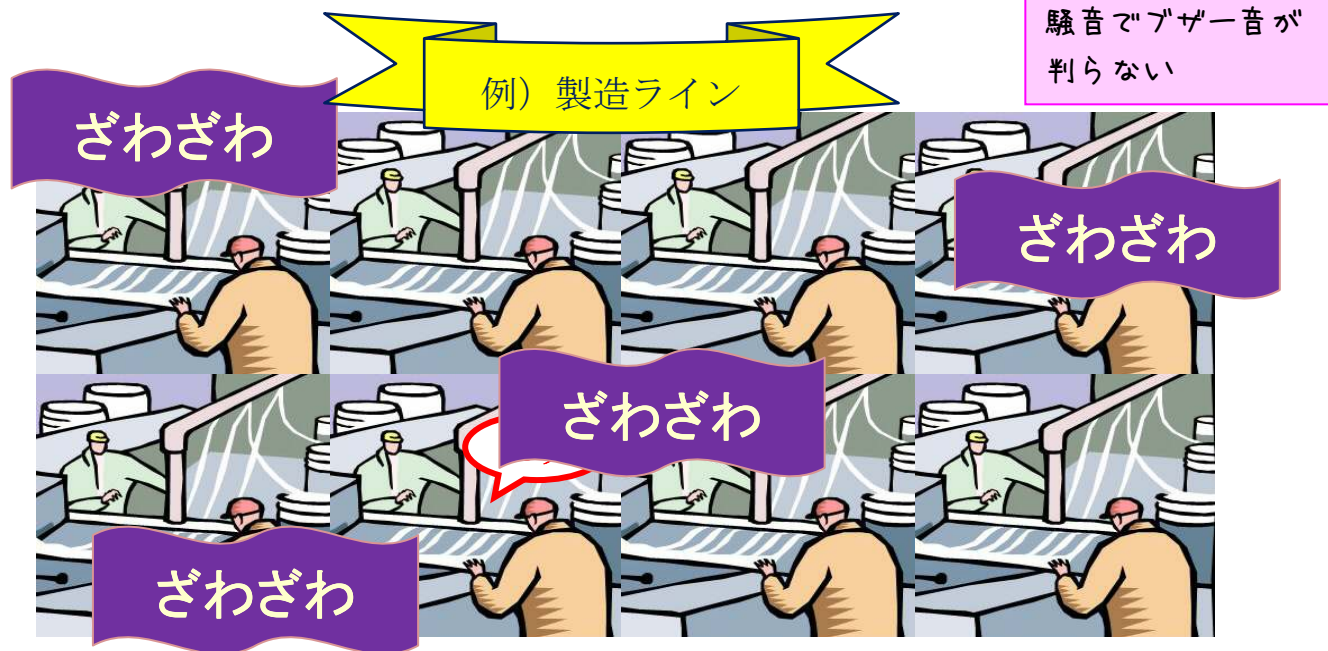
ブザー音長の設定



短(*)



長



読取り前

読取り成功

【内容】

読取確認ブザーの音色を選ぶことができます。

また、単音／複音の選択も可能です。

【活用例】

読取確認ブザー音を変えることで、近くで隣り合って作業している場合でも、それぞれが読取確認しやすくなります。

ブザー音色の設定

ブザー音タイプの設定

例) 伝票のバーコードの一斉入力



単音(*)



複音



音色 1



音色 2(*)



音色 3



音色 4



近くで何台も使用していて、
同じ音だと紛らわしい

2つのバーコードデータを連結して出力

GRD/HGD130

【内容】

バーコードを2つ読み取って、データを連結して出力する機能です。
バーコード種別または桁数のいずれかが異なれば、読み取った順番に関係なく、指定した順に連結します。

【活用例】

商品コードとシリアル番号とを紐付けして、Excelに入力したい場合。
どちらのバーコードから読み取っても、「商品コード」+「シリアル番号」の順で連結。さらに、データ編集機能でコード128の8桁データの先頭にTabを付加することで、A列に商品コード、B列にシリアル番号、といった入力が可能です。

読み取る順番を気にせず、商品コードおよびシリアル番号のデータをExcelに入力したい。



4 560151 184005



ABC12345

	A	B	C
1	商品コード	シリアルNo.	
2	4560		
3	4560		
4	4560151184005	ABC12345	
5			

区切り文字：Tabで隣のセルに移動

ターミネータのEnterで次の行の先頭にカーソル移動

JANの13桁とコード128の8桁とを連結する設定

設定例



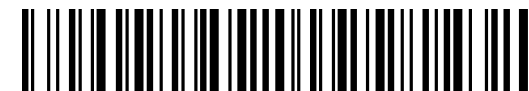
データ連結を有効



コード1：JAN、13桁



コード2：コード128、8桁



コード1のコードIDを適用、

連結タイムアウト2秒、

片方しか読まなかった場合は出力しない



データ編集機能：コード128 8桁の先頭にTabを付加

データの一部を抜き出して出力(データ編集機能:1)

GRD/HGD130

【内容】

読み取ったバーコードデータを、さまざまな条件で加工して出力することができます。

例) 指定桁数の抜き出し、データ並び順の入替え、データの途中に指定のキャラクタを追加、など。

加工対象を、バーコード種別や桁数で限定することもできます。

【活用例】

バーコードデータのうち、ハイフンで区切られた中間部分だけ抜き出したい。桁数は不定で、前後のデータ長も不定長。

コード128で、ハイフンで区切られた中間部分だけ抜き出す設定

設定例



ABCDE-123-xyz



BAR-99-CODE

バーコードデータのうち、作業指示番号のみを抜き出して履歴収集したい

Microsoft Excel - 指示番号収集.xls		
	A	B
1	指示番号	
2	123	
3	99	
4		
5		



データの途中にキャラクタを追加(データ編集機能:2)

GRD/HGD130

【内容】

読み取ったバーコードデータを、さまざまな条件で加工して出力することができます。

例) 指定桁数の抜き出し、データ並び順の入替え、データの途中に指定のキャラクタを追加、など。

加工対象を、バーコード種別や桁数で限定することもできます。

【活用例】

型番とシリアル番号が連結されたバーコードを読んだとき、Tab を挿入して、Excel に分割して取り込みたい。

コード 128 の 16 桁の
バーコードを読んだとき、
10 桁目と 11 桁目の間に
Tab を挿入する設定

設定例

取引先によって、
型番とシリアル番号とが、
連結されていたり、
個別にバーコード化
されていたりする

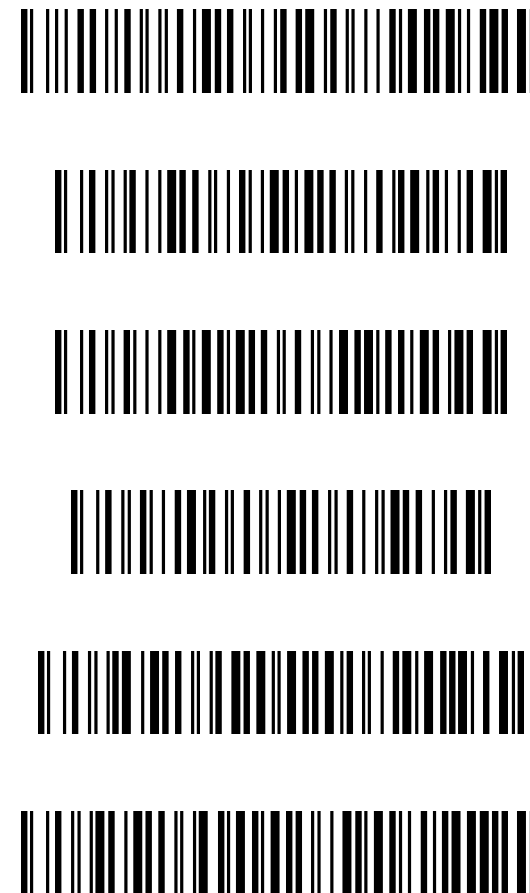


Microsoft Excel - シリアル番号収集.xls	
	B
1	型番
2	HG
3	GRD130USB
4	890012
5	

区切り文字 : Tab で
隣のセルに移動

ターミネータの Enter で次の行の
先頭にカーソル移動

※5 ページの「2つのバーコードデータを連結して
出力」機能を使うことで、型番とシリアル番号とが
個別にバーコード化されている場合でも、順番を
気にせず読み取ることが可能です。



【内容】

指定の文字をデータに付加して桁数を調整する機能です。
調整する桁数は、コード種別ごとに設定可能です。

【活用例】

JAN-13 および JAN-8 の先頭に 0 を付加して、GTIN フォーマット
(14 桁) にしたい場合。

- ・付加文字 (桁数調整キャラクタ) : 0
- ・JAN-13 : 先頭に 1 桁付加
- ・JAN-8 : 先頭に 6 桁付加

設定例



桁数調整 : JAN-13 の先頭に 1 桁付加



桁数調整 : JAN-8 の先頭に 6 桁付加



桁数調整キャラクタを「0」に設定



桁数調整を無効にする(*)

JAN-13 および JAN-8 の先頭に 0 を
付加して GTIN フォーマットにしたい



⇒ 04560151184005



⇒ 00000049968712

データの桁数を付加して出力

GRD/HGD130

【内容】

読取ったバーコードデータの桁数を付加して出力することができます。

桁数データは、4桁固定（6桁なら「0006」、12桁なら「0012」）
または可変長（6桁なら「06」、12桁なら「12」、100桁を超える
と3桁での表示）となります。

【活用例】

バーコード桁数ごとに項目が異なる使用方法。

「宅配便の出荷履歴管理をしたい」

送り状番号：コードバー12桁

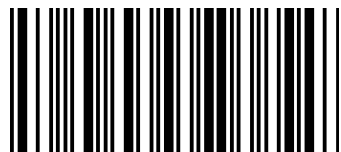
扱い店番号：コードバー6桁

送り状番号、扱い店番号の2つの
バーコードを、順番を気にせず
読取って履歴収集したい。

データ桁数付加設定



a123456789012a



006652

<アプリケーションソフト>

入力されるコードの先頭文字（桁数情報）を
判断して自動で所定の項目に入力してくれる
データ入力フォーム



出荷履歴管理システム：フォーム

送り状番号： (12桁)	123456789012
扱い店番号： (6桁)	006652

データ登録

レコード: 1 / 1



桁数を付加しない(*)



桁数を付加する（4桁固定）



桁数を付加する（可変長）



コードバー有効

バーコード種別ごとのコードID

GRD/HGD130

【内容】

バーコードの種別ごとに任意の1文字または2文字をバーコードデータの前に付加することが出来ます。

【活用例】

バーコード種別ごとに項目が異なる使用方法。

「コンタクトレンズの出荷時にロット管理をしたい」

商品型番：JAN13→先頭にJJを付加する

ロット番号：EAN128→先頭にEEを付加する

宅配便送り状番号：NW-7→先頭にNNを付加する

例) EAN/JAN13 は先頭に JJ を付加

設定例

例) コンタクトレンズの出荷

<アプリケーションソフト>

入力されるコードの先頭文字を判断して自動で所定の項目に入力してくれる
ロット管理システム



カスタムコード ID の設定開始



種別:JAN-13/ID=JJ



カスタムコード ID 有効

バーコードリーダーから入力されるデータ

JJ4560151184005

EE08032601

EE08032603

EE08032624

EE08032659

NNa123456789a

入出荷データ収集システム

出荷

出荷・入荷 切り替え

商品	ロット

No	商品番号	ロット番号
1		

0 個

CSVファイル出力

プログラム終了

【Space Key】 【BackSpace Key】

商品番号とロット番号に送り状番号をヒモ付けて登録



4 560151 184005

【内容】

AS400 (SYSTEM-i) におけるキー操作において、入力値確定のための実行キーを、DOS/Vキーボードでは右Ctrlキーで対応します。

本設定では、バーコード入力後に改行の代わりに右Ctrlキーを付加することで、リーダーでのバーコード入力確定を可能にします。

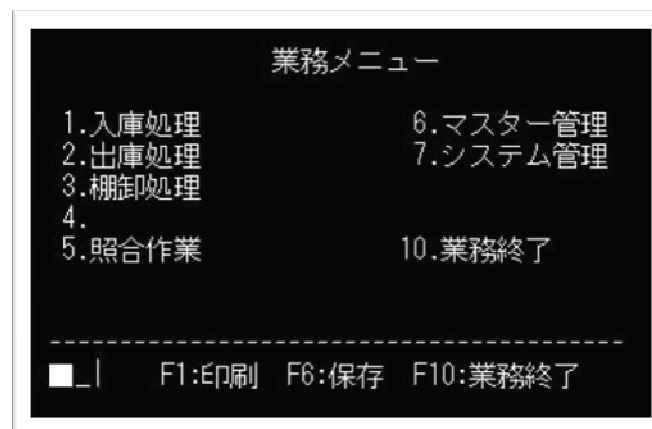
【活用例】

AS400の業務システム。

設定例



ターミネータを実行 (右CTRL) に設定



【内容】

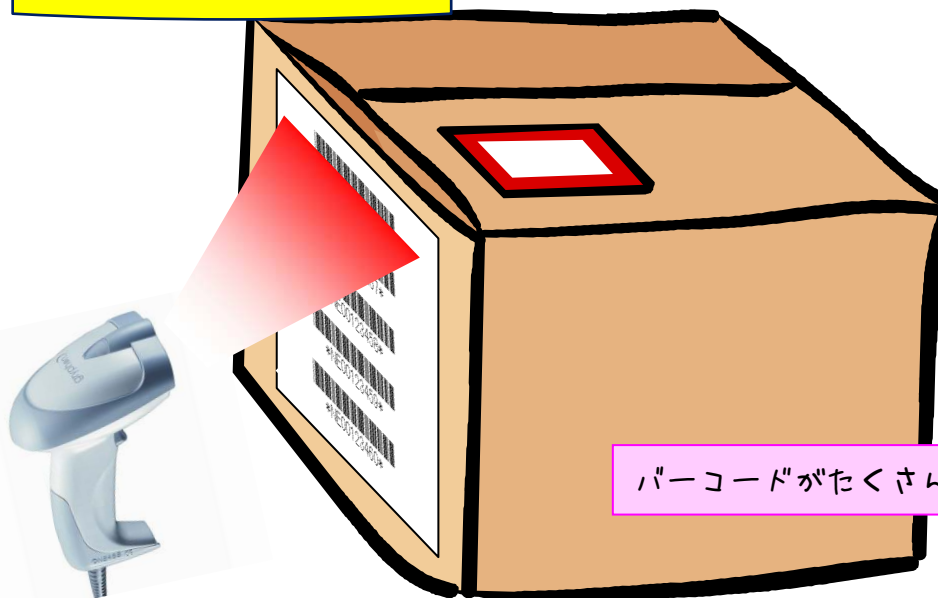
バーコードが密集しているときに、目的のバーコードに狙いを定めてから読取りを行なう機能です。

バー検知モードでは、バーコード検知するとエイミング光を照射しますが、トリガーボタンを押すまでバーコード読取りを行ないません。

【活用例】

電子機器の集合梱包でシリアル番号を外装に貼ってある場合など、たくさん並んだバーコード同士の間隔が小さくて、狙いを定める前に間違っ別々のバーコードを読取りしてしまう場合。

例) 外箱のシリアル



バーコードがたくさん並んでいる

モード1の設定



トリガースイッチ使用(*)



バー検知でLED点灯/トリガースイッチで読取り



バー検知でLED点灯/自動読取り



LED常時点滅/自動読取り



LED常時点灯/自動読取り

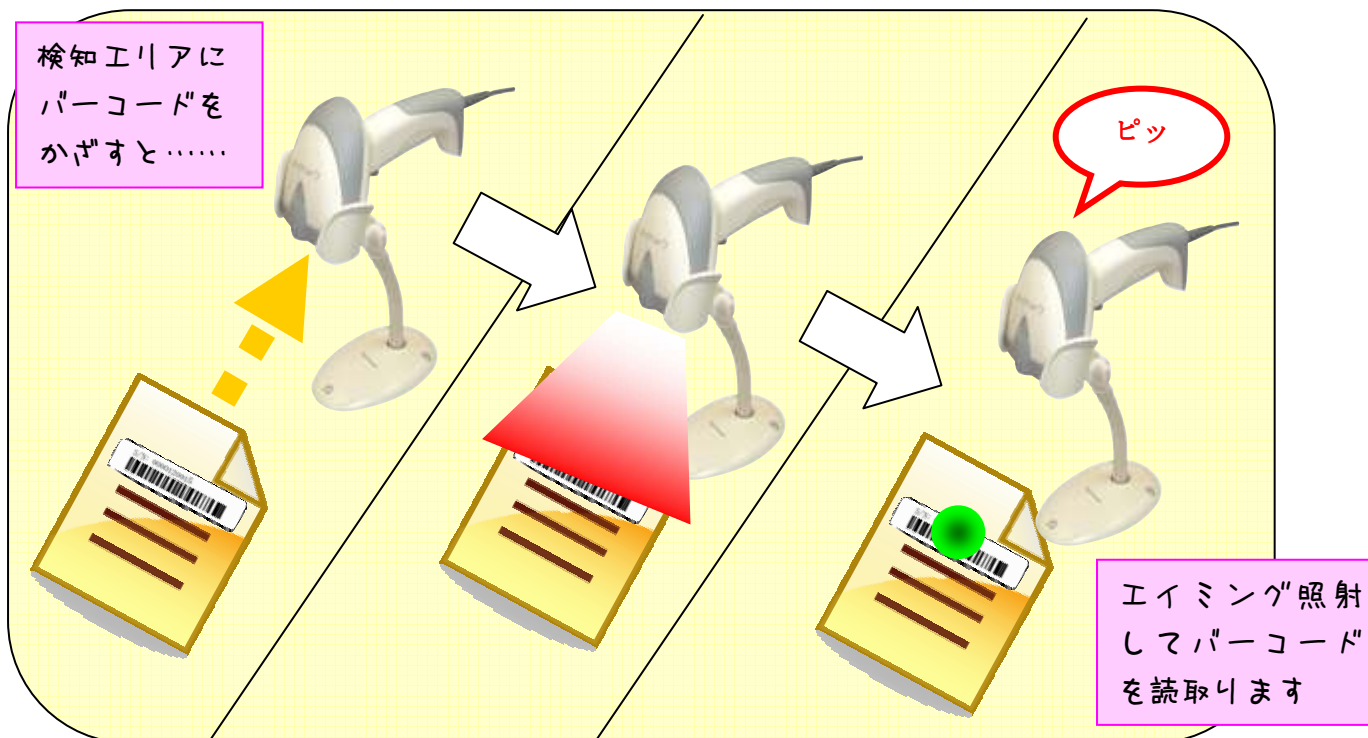
【内容】

トリガーボタンを使わずに、バーコードをかざしたときに自動で読取りを行なう機能です。グリフォン／ヘロン G は、「モード 1」と「モード 2」と、2つの読取モードを設定しておくことが可能です。

通常は「モード 1」で動作しますが、スキャナをオートスタンドに載せると自動的に「モード 2」に切り替わります。これにより、スキャナを手を持って使う際はトリガーボタンを使用、オートスタンドでは自動読取、といった設定が可能です。

【活用例】

通常はオートスタンドを利用して自動読取したいが、持ち上げるのが大変な大きな商品もある場合。



モード 2 の設定



バー検知で LED 点灯 / 自動読取り (*)



トリガースイッチ使用



LED 常時点滅 / 自動読取り



LED 常時点灯 / 自動読取り

【内容】

誤読しやすいバーコードラベルであった場合、数回のデコーディングを行うことで**誤読防止**になります。

回数は、デコード回数1回（多重チェックしない）～4回（3回チェック）から選択します。

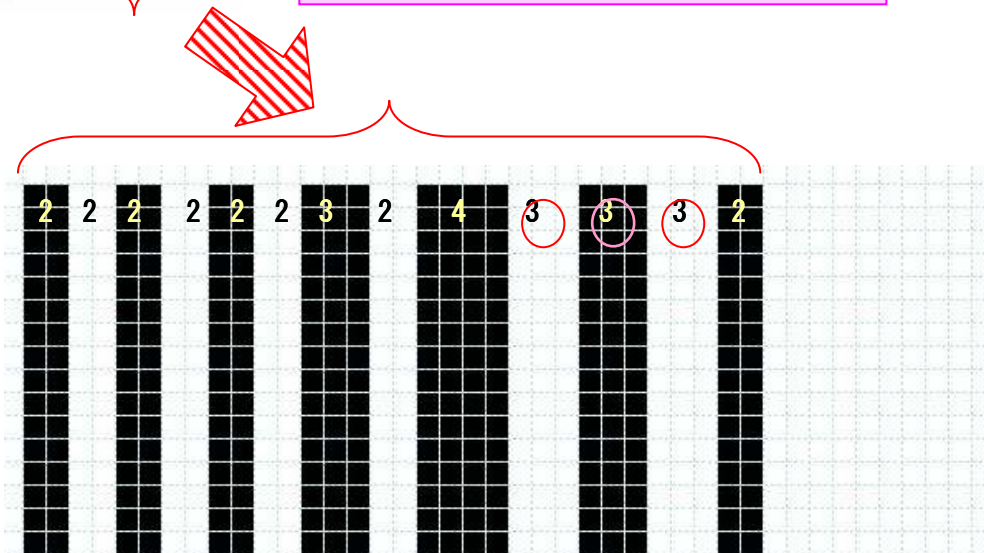
デフォルトは1回（多重チェックしない）です。

【活用例】

画像化されたバーコードを引き延ばしたものを印刷したため、**白スペースと黒BAR**との対比が合わなくなって、認識しづらい



ここがあやしい！！
バーコードの太さが不均一なため、
誤読しやすい。



設定例



多重チェック：なし(*)
(デコード回数：1回)



多重チェック：1回
(デコード回数：2回)



多重チェック：2回
(デコード回数：3回)



多重チェック：3回
(デコード回数：4回)

【内容】

スキャン回数を、1/2 または 1/4 に減らすことができます。
読取速度はそのぶん遅くなりますが、消費電流を抑えることができます。

【活用例】

バッテリー駆動させているノート PC に接続して使用しており、消費電流を抑えてバッテリーを長持ちさせたい場合。

設定例



スキャン速度 1/4



スキャン速度 1/2



フルスキャン(*)

例) ノート PC につないで、
外出先でも使いたい



【内容】

キーボードで日本語文章をかな入力中にバーコードデータを入力しようとする、バーコードデータも全角になってしまいます。リーダからのバーコードデータのみ半角にする場合、この設定で可能になります。

設定の構造は、

全角／半角OFF → バーコードデータ → 全角／半角ON
となっています。

※) リーダの設定は英語キーボードにします。

【活用例】

日本語で文章作成中にバーコードデータを半角で入力したい。

※) バーコード入力できるのは、アルファベットおよび数字となります。
(記号は入力不可)

バーコードリーダから
入力した半角文字

全角

全角

あいうえお 1234567 かきくけこ

さしすせそ 6767676 たちつてと

なにぬねの 9986641

設定例



英語キーボード



ヘッダを、(バッククオート)に設定



ターミネータを、(バッククオート)に設定

全角／半角キーは
英語キーボードの、